



Q

遠い親戚のおばさん、「お家には、必ず一番座(イチバンジャ)と二番座(ニバンジャ)をつくりなさい!」と言われました。しかし、そのおばさんはマンションに住んでいて、どう考えても一番座・二番座があるようには思えません。わが家は、まだ子どもが幼いので、間取りは子ども部屋を中心に考えたいのですが、どうしたものでしょうか?

(宜野湾市・Sさん)

A

せっかくの新築でするので、間取りを子ども部屋中心に考えたい気持ちには、親なればこそその愛情ですよね。その気持ち、痛いほどよく分かります。一方、沖縄の住宅でいう一番座・二番座とは、床間(このま)・仏間(ぶつま)を指し、家庭での儀式・法要や来客の際に、とても重要な間取りであることも広く知られています。

回答としては、1「一番座・二番座をつくる」2「一番座・二番座をつくらない」

3

「折衷(せつちゅう)案を模索する」という3つの選択肢があるかと思えます。最近の沖縄では、1か2を選択する家もありますが、3を選ぶ家も多く目にします。

3の折衷案とは、「2つの和室が必要になる一番座・二番座を、1つの和室にコンパクトに納める方法」です。その際、和室の窓側(外部と接する壁側)に床間を設けて一番座と見なし、和室の内側に仏間を設けて二番座と見なします。まだ仏

間の必要がない家庭では、押し入れを設けることとなります。この折衷案のことを、仮座(かりざ)といいます。もしかしたら、アドバイスしてくれたおばさんのマンションも、仮座になっているのではないのでしょうか?

一番座・二番座を住宅の上座・下座とする考え方もありますので、このことを間接的に教えてください、心から感謝したいものです。



伝統的な一番座・二番座のあるお家(沖縄市・森山家)

Q

今年、新築しました。新築したら、親戚の年中行事にも参加しないと、多くのアドバイスをいただきます。毎年4月に行われる年中行事の「清明(せいめい)祭(さい)」について教えてください。会社がとても忙しいのですが、やはり参加しないとダメでしょうか? (うるま市・Fさん)

A

そうですね、参加しないとダメです(笑)。というより、可能であれば参加する方が良いでしょう。清明祭とは、中国の暦(こよみ)である「二十四(にじゅうし)節気(せつき)」の「清明(せいめい)節(せつ)」(三月節)に由来します。昔の中

国では、旧暦3月の頃、ご先祖のお墓に一族みんなを出向き、草むしりなどをしていたそうです。ここから清明節のことを「掃(そう)墓(ぼ)節(せつ)」ということもあります。

琉球の史記である『球陽』には、尚穆王17年(1768年)の項に、掃墓節である清明節が首里士族に伝わったとの記述があります。士族の多い地域で行われていた関係から、離島などではあまり普及せず、十六日祭(あの世の正月)が中心であるという民俗学的事実もあります。

清明祭には、門中(モンチュ)・宗家(ムートウヤ)の清明祭である神御清明(カミウシミ)と、親戚・

家族(チネ)の清明祭である御清明(ウシミ)があります。現代の神御清明は新暦4月上旬から中旬に、御清明は4月の中旬から下旬に行うのが望ましいといわれます。

沖縄では清明祭は親戚・家族の大切な交流の場であることから、清明(シミ)というより、畏敬の想いを込め、御(ウ)の敬語をつけて「御清明(ウシミ)」ということが丁寧であるといわれます。

私が講師を勤める、ある大学の講義で、以前「清明祭が分かる人いますか?」と質問したことがあります。1朝早くから車で許田イン

パーキングで買い物を買って、お弁当をみんなでチョーおいしく食べたりすることです」と真顔で回答した学生がいました。他の学生からは、「おいおい」と戒められていましたが、私はこの学生に100点満点の評価をさせていただきました。

清明祭は、お墓の前で子孫の繁栄を祈り、祝う年中行事であるとか。皆さんが参加するだけで、ご先祖孝行・親孝行になりますので、なんとかスケジュールを調整して、この

学生のように「お弁当をチョーおいしく食べてあげてくださいね。」



イラスト: 帰依 ひろ子